

短報

三月荒神に関する報告と一考察 —西浦荒神社の事例を中心に—

熊本県博物館ネットワークセンター

原田 信敬

【キーワード】 西浦荒神社、荒神、金神、遊行神

第一章 はじめに

熊本市北区の西浦荒神社には、「三月荒神」という荒神信仰が伝えられている。この信仰は、三か月ごとに荒神が方位を変えながら移動し、その方位にあたりと崇りがあるとされているもので、荒神の信仰⁽¹⁾としては、遊行するという点において特徴的な信仰である。本稿は、西浦荒神社とこの三月荒神について整理を行うとともに、いくつかの類似点が認められる金神信仰と三月荒神の関係を検討していく。

第二章 西浦荒神社について

一〇月二六日に行った、西浦荒神社宮司への聞き取り調査をもとに、西浦荒神社とその信仰について整理を行う。

第一節 祭神

西浦荒神社は、その名の通り荒神を祀る神社であり、祭神はオキツヒコノカミ、オキツヒメノカミ、ハニヤスヒメノカミの三柱としている。いずれも記紀神話の神であり、神道の枠組みの中で荒神を祀っている。

宮司によると西浦荒神社の荒神には火の神としての信仰、仏・法・僧を守護する三宝荒神の信仰、方位に関する禁忌を持つ三月荒神という三つの性格

の異なる信仰が併存しているという。

第二節 由緒

西浦荒神社の宮司によると、加藤清正が熊本城を築城した際、『三宝院』を建てて城内に三宝荒神を祀ったという。時代は下り、細川家の四代綱利公の時代、西浦に藩主の別荘として御茶屋が作られ、その別荘の鬼門である現在の位置に、鬼門除けとして荒神が移された。当時は荒神堂と呼ばれており、小さな堂があるだけだったという。その後、明治に入り神仏分離令が發布されると、荒神堂は神社に改められたこれが現在の西浦荒神社の始まり⁽²⁾だという。

このように、西浦荒神社は元来荒神堂と呼ばれており、その規模も小さなものだったが、神仏分離令によって神社となった後に参拝者が増加するようになったという。具体的には、三代前の宮司からといわれている。三代前の宮司は「オンナガミサン」（宮司は女性）とよばれており、そのころから信者が増えていったという。

第三節 西浦荒神社の信仰

西浦荒神社は特定の氏子を持たない崇敬社であり、西浦の荒神さんにお参

りするために遠方より足を運ぶ人も多いという。地域的には熊本県北部や福岡県南部が多い。また、熊本県から転出した家から手紙などをもらうこともある。

話を聞く限りでは、西浦荒神社は熊本市近郊を中心に県北部において、信仰を集めているようである。実際に、新熊本市史には熊本周辺や城北の人々が土地や井戸、家などを扱う際に西浦荒神社に参詣するという報告がある。(熊本市史編纂委員会 一九九六 九〇六) また、菊池市泗水町富でも荒神の祟りがあると西浦荒神社に参詣するという。(丸山学 一九六五 二七一) さらに、益城町でもコージンと呼ばれるクドの神には、西浦荒神社の御札を供えている(益城町史編纂委員会 一九八九 一五〇)。また、著者が実際に把握している例では、合志市須屋に祀られている打越荒神の祠には西浦荒神社の御札が供えられており、さらに西浦荒神社が公表している三月荒神の遊行方位の表が掲示されている。

また、西浦荒神社では、荒神に関する御祓いの依頼も多く、屋敷神として祀られている荒神を移動させたり、荒神の祠を撤去する際(コウジンアゲ)の依頼が多いという。三月荒神関係では引越しや改築、増築など家や屋敷地に手を加える際に、三月荒神の御祓いを依頼されることが多い。繁忙期は一月から四月の間で、引越しの時期に重なっている。

御祓い以外では、定期的にお参りに来る人も多く、毎月一日には月参り(一日参り)に訪れる人も多い。鬼門払いの月とされる正月五月九月(シヨウゴク)の月に参拝することも多い。また、家相の相談も受けることがあるという。

第三章 三月荒神について

第一節 西浦荒神の三月荒神信仰について

前述の通り三月荒神は遊行しながら特定の方位に祟りをもたらす神であ

る。西浦荒神社では旧暦の一月から三月は東、四月から六月は南、七月から九月は西、一〇月から十二月は北というように、時計回りに方位を変えていくとされる。三月荒神の遊行については、各寺社によって異なるという。大まかには立春を起点とする場合と正月を起点とする場合の二種類があるという。また、遊行の方位についても四方位で大まかに分ける場合もあるが、北東からはじまり、一日ごとに少しずつ三月荒神が移動していくという考え方もあるという。

西浦荒神社の遊行の方位の決め方については、参考となるようなテキスト類はなく、昔から伝えられているものをそのまま利用しているという。

西浦荒神社には、この三月荒神に関する相談が熊本県北部在住者を中心に一定数寄せられており、方位に関する助言やお祓いなどを行うことも少なくないという。

ただし、西浦荒神社の三月荒神に関する文献や報告は少なく、筆者が確認できた範囲では、旧北部町史の「また、町内に西浦の荒神さんのある関係で、屋敷神として荒神さんをまつる家が多い。三月荒神等は、祟りが激しいため恐れられ、その月の方向を気にする人も多い」(桑原 一九八八 七七七)という記述と、益城町史の「また、三月荒神を気にする家もある。これは1日毎に居る方角がずれ、一年で一周する神である。方角は家の大黒柱を中心にしてみる。三月荒神がいる方角に釘を打ったりすると障る。方角が悪くないかは西浦荒神などに見てもらおう。」(益城町史編纂委員会 一九八八 一五〇)の二つのみである。

第二節 その他の三月荒神信仰について

前述のとおり三月荒神に関する報告は少なく、その詳細は不明な部分が多い。しかし、西浦荒神社以外にも、「三月荒神」と呼ばれている信仰について、インターネット上にいくつかの記事を確認できる。以下に今回確認でき

た、「三月荒神」について解説している記述を抜粋する。

○熊本県荒尾市 妙国寺 (<http://myokokuji.info/news/889>)

皆様は「三月荒神さん」という神様をご存知ですか？三ヶ月ごとに向く方角を変える神様で、引越しや移転、動土、家屋建築などの際にこの三月荒神座位していらっしゃるに方角へ向かって移動するとよくないことが起こると考えられています

実はこの三月荒神、全国で信仰されているわけではなく、実はかなりのローカルな神様で大牟田市、荒尾市や玉名、熊本市や熊本県の北の地方で特に信仰されており。

少し調べてみますと、同じように方位の神様としては金神さまが知られています、金神はその年の十干によって居る場所を変えて、金神のいる方位に対してはあらゆることが凶とされ、特に土を動かしたり造作・修理・移転・旅行などが禁忌とされています。

この方位を犯すと家族7人に死が及び、家族が7人いない時は隣の家の者まで殺されると言われて恐れられているようです

言い伝えによりますと、加藤清正公が朝鮮の役の時に籠城されて苦戦された時に、ある夜清正公は脱出の隠れ道を告げる荒神の夢を見、清正公は夢のお告げに従ってひそかに囲みを脱出して九死に一生を得ました。

それから清正公は荒神の熱心な信者になり熊本城を築いた時にお城の守り神として三宝荒神をおまつりしていたそうです。

その三宝荒神と金神信仰が合わさって生まれたのが三月荒神ではないかという言い伝えがありますが確かなことはわからないようです。

名のごとく、三か月ごとに移動されます。昔から地元の人たちは三月荒神を犯してしまう時には「方違え」と言って一度三月荒神を犯さない

方角へ出かけ、行く方角を変えてから目的地へ行くなど、昔から深く地域に根差した神さまです。

当山にも「引越しをしますので、三月荒神さんを鎮めるお祓いをお願いします」や「移転する方角が大丈夫か見てください」などのお問い合わせはよくございます。

○熊本県西原村 白山姫神社

(<https://shirayamajime.jimdofree.com/%E4%B8%89%E6%9C%88%E8%8D%92%E7%A5%9E%E3%81%95%E3%82%93/>)

お問い合わせの多い「三月荒神さん」。東西南北を一年かけて「右回り」され、その方角に向かつての転居・お引越しなどを行うと、災難がふりかかると恐れられております。

旧暦 1月 1日から三ヶ月間が「東」。

旧暦 4月 1日から三ヶ月間が「南」。

旧暦 7月 1日から三ヶ月間が「西」。

旧暦 10月 1日から三ヶ月間が「北」。

どうしても就職・進学でその方面に行かなくてはならない必要がある方は、ぜひ「方位除災」の御祈祷をお受け下さい。

○福岡県大牟田市 上内八幡宮 (https://894ke.com/wp/?page_id=12)

三月金神は、この福岡県の大牟田市や熊本県北部の荒尾、玉名をはじめ、有明海沿岸エリアでは数ある方位神の中でも、もともと恐れられているといわれ、鎮まる方位は、福岡県神社庁の暦にも記されており。

迷信ではありませんが、古より金神七殺といい、犯すと七人殺すといわれ、家族が七人いない場合は、隣近所の住人を祟るとまで言われる恐ろしい神様です。金神は百科辞典にもその解説が載るくらい日本には広まっています。大牟田、荒尾では三月金神が色々いらっしゃる金神様の中でも特に恐れられています。良くみつきこうじん三月荒神といわれ

る方がいらっしやいますが、これは三方荒神と混同されているようですが正確には三月金神（みつきこんじん）です。（中略）動きは、旧暦で見ます、旧暦は福岡県神社庁の暦や、高島暦でみます。1月から3月は、東 4月から6月は、南 7月から9月は、西 10月から12月は、北

第三節 小括

前節で確認したように、西浦荒神社以外にも「三月荒神」と呼ばれる信仰が確認できる。その内容には細かな違いが認められるが、以下の点で共通している。

- ① 三ヶ月毎の遊行周期を持つ
- ② 荒神（金神）がいる方角に対して禁忌がある。
- ③ 禁忌は、引越しや移転、建築などに関係する。

以上の三点は、西浦荒神社以外にも共通しており、「三月荒神」と呼ばれる信仰の特徴と捉えることが出来る。

また、前節において引用したように、西浦荒神社以外の神社でも三月荒神の相談がよせられており、この信仰は西浦荒神社に限定的なものではないと考えられる。

第四章 金神信仰との比較

陰陽道で信仰される金神と三月荒神の信仰には類似する部分が多い。この点については、西浦荒神社の宮司も指摘しており、① 方位に関する祟り神であること、② いずれも遊行神であり、金神の遊行には四季により方位を変える信仰が存在していること、③ 両方とも鬼門の信仰、鬼門荒神、鬼門金神の信仰があること④ 荒神（コウジン）と金神（コンジン）の音が似ていること、の四点を挙げて、「金神の方位は、年、月によっても移るが、四季によ

つても移る考え方がある。春夏秋冬に東西南北の五日間であるが、この方位は大凶方となる。以上のことにより、熊本地方で荒神信仰と金神信仰が習合し、四季により方位を移す祟りの神の三月荒神の信仰が広まったということが十分考えられます。」（西浦荒神社ウェブサイト 「荒神様」 <https://nishirakoujin.com/%E8%BD%92%E7%A5%9E%E6%A7%98> 一〇二一年一月二九日確認）と推定している。

また、福岡県では、西浦荒神社の三月荒神と同様の信仰が「三月金神」と呼ばれており、福岡県神社庁が発行する『神社廳暦』にも三月金神に関する解説と遊行周期が記載されている^③。

以上のことを踏まえ、三月荒神との関係が想定される金神信仰についてその概要を確認していきたい。

金神は陰陽道で祭られる方位の神の一つである。渋川春海が編纂した貞享暦まで、正式な暦には採用されなかったが、清原氏を中心に金神の忌が貴族社会に浸透し、平安時代後半には金神の信仰が日本に広まっていたとされる。（林 一九九八 五三）

江戸時代に入ると、各種の民間暦に金神が記載されるようになり、金神の信仰は隆盛をみせる。林（一九九八 五三）は、江戸時代に金神の信仰が民俗信仰と結びつき西日本を中心に全国各地に広がっていく中で、金神が祟りをもたらす代表的な神にのし上がっていったと指摘している^④。

具体的な金神の遊行については諸説あるが^⑤、大まかに言えばその年の干支によって変動する点は共通していることが多い。金神に関する比較的古い記述であり、金神の遊行周期について貞享暦に影響を与えた拾芥抄から金神の遊行の実例をあげると、甲巳の年は午未申酉、丙辛の年は寅卯午未子丑、戊癸の年は申酉子丑、庚乙の年は辰巳、壬丁の年は寅卯午未子丑、季節の遊行についても諸説あるが、一般的には春の乙卯の日から5日程度は東、夏の丙午の日から5日程度は南、秋の辛酉の日から5日程度は西、冬の

壬子の日から5日程度は北とされる。(宮内 一九九九 六六五)さらに、一般的にはこの二つの遊行に加え、金神の方位を犯してもさしつかえないとされる間日が季節毎に加えられることが多い。

このように金神の遊行は、十干・十二支を前提とした暦と結びついており、三ヶ月毎に移動する三月荒神よりも複雑な遊行の周期を持っている。そのため、周期のみを検討した場合、金神信仰と三月荒神の間に直接的な連続性があるとはいえない。しかし、福岡県神社庁の『神社廳暦』(福岡県神社庁 二〇二〇 三六)で確認できる「三月金神」という呼称から、三月荒神と金神信仰の間には何らかの連続性が想定されることも事実である。

もしも、金神信仰が三月荒神の信仰に変容したとすれば、干支に基づく遊行周期が脱落もしくは分離し、三ヶ月毎の遊行に変容した過程を検討する必要があるが、現在のところその過程を示す資料はない。また、本来は金神であったものが、なぜ荒神と習合することになったのかという点も検討する必要がある。ただし、西日本では金神と荒神の信仰が結びつく場合があるという報告⁶⁾もあり、さらなる調査が必要だろう。また、補足的にはなるが、竈の神や荒神と習合する事例の多い地神にも、土公神⁷⁾のように、季節毎に遊行するとされるものもあることから、金神以外の神との関係性についても調査する必要があるだろう。

第五章 総括と今後の課題

本稿では、西浦荒神社について、その由来と信仰についてその概略を整理するとともに、西浦荒神に伝えられている三月荒神の信仰について、文献やインターネット上の記事をもとに検討を行うとともに、いくつかの類似点を認められる金神信仰との比較を行った。

結果として、西浦荒神社が熊本県の北部を中心に一定の信仰を集めていること、一方で、西浦荒神社に限らず、三月荒神の相談を受け付けている神社

が確認できることから、三月荒神の信仰は西浦荒神社に限定的なものではないことが指摘できる。また、金神との関係については、遊行周期から直接的な連続性を見出すことはできなかったが、福岡県の「三月金神」の呼称が存在することを踏まえると金神信仰との連続性は否定できない。

課題としては、金神と三月荒神の信仰の関係について、さらなる分析を行う必要があるだろう。また、今回は、西浦荒神社の宮司への聞き取りを行ったが、三月荒神を信仰する人々への聞き取りを行い、個別事例を通して、三月荒神の信仰を検討する必要があるだろう。

くわえて、西浦荒神社そのものについても、さらなる検討が必要だろう。西浦荒神社は明治以降に荒神堂から神社となった比較的歴史が浅い神社である。また聞き取りでは、荒神堂から神社へ変わった後、オンナガミサマが宮司を務める時期に参拝者が増えたという情報が得られたことにも注意を払うべきだろう。この情報を踏まえると、明治以降のある時期を境に、西浦荒神社が県北部においてその信仰を広げていったと考えられる。さらに、九州地方の荒神信仰には、民間の宗教者が荒神の祭祀に携わっていたことが、以前から指摘されている⁸⁾ことも、注目すべきであろう。

今後は、視野を広げつつ、三月荒神信仰について検討を行う予定であるが、それについては稿を改める。

註

- (1) 荒神はおもに、屋内に祀られ竈や火をつかさどる神としての内荒神(三宝荒神とも)と屋外に祀られ、屋敷神、同族神、集落神社などの外荒神に分類される。(徳丸 一九九九 五九三) 荒神の信仰は様々ではあるが、熊本県内では、屋敷神としての荒神の信仰と、塚や藪などを荒神森と称して祀る場合が多い。屋敷神としての荒神は、南天や自然石の場合が多い。
- (2) 聞き取り調査のとおり、肥後国誌(後藤他 一九一六 一二四)には、西

浦荒神社ではなく、荒神堂という名称で記述がみられる。

- (3)福岡県神社庁発行の『神社廳曆』には「(前略) 金神も大將軍は三年、大金神、姫金神は一年間は動きません。巡り金神は遊行日があつて、その年の座方が、凶方ではなくなる事になります。尚、この他に、三月金神、月金神、日金神があります。尤も恐ろしがられるのは三月荒神です。又金神が、天道、天徳、月徳神、九紫と同座すれば、其の凶方は凶方ではなくなります。」と解説されている。その遊行の方位は、旧曆一月〜三月は北、四月〜六月は東、七月〜九月は南、一〇月〜十二月は西となっている。
- (4)林(一九九八)によれば、江戸時代初期の京曆、伊勢曆、三島曆といった地方仮名曆に必ず金神が記載されており、貞享曆からは正式な曆にも記載されたとしている。また、林は同稿で江戸時代の易学者の新井白蛾の文章を引いて江戸時代に山伏などを担い手として金神信仰が流行していた点を指摘している。
- (5)金神の遊行の所説については、金井(一九五四 一二二)が概要をまとめている。
- (6)宮内(一九九九 六六五)「西日本では、荒神信仰と結びつき、毎月二十八日とか、正・五・九の二十八日に屋敷神としてまつることがある。」
- (7)土公神は、金神と同じく陰陽道由来の神で土を司る地神とされている。春は竈、夏は門、秋は井戸、冬は庭と遊行する神で、この期間に所在の土を犯すとなたりがあるとされる。竈神や荒神、火の神と習合することが多い。(鈴木 一九九九 二〇五)
- (8)直江(一九六六 三七三-三七四)は、荒神の祭祀に法印やオガシと呼ばれる宗教者が関与していたことを指摘している。また、九州北部では地神盲僧が地神や荒神の祭祀に関与していた。(西岡 一九九九 七六五)

引用・参考文献

- 金井徳子「金神の忌の発生」(『史論』 日本女子大学、一九五四年)
- 熊本市史編纂委員会『新熊本市史 別編』(熊本市 一九九六年)
- 桑原憲彰「北部町の民俗」(『北部町史』 北部町、一九八八年)
- 後藤は山他『肥後国誌』(九州日日新聞社印刷部、一九一六年)
- 鈴木正崇「土公神」(『日本民俗大辞典 下』 福田アジオ他、一九九九年)
- 徳丸亜木「荒神」(『日本民俗大辞典 上』 福田アジオ他、一九九九年)
- 直江廣治『屋敷神の研究』(吉川弘文堂、一九六六年)
- 西岡陽子「地神盲僧」(『日本民俗大辞典 上』 福田アジオ他、一九九九年)
- 林淳「陰陽道と方位」(『建築雑誌』 日本建築学会、一九九八年)
- 福岡県神社庁『神社廳曆』(福岡県神社庁 二〇二〇年)
- 益城町史編さん委員会『益城町史』(益城町 一九八九年)
- 丸山学『熊本県民俗事典』(日本談義社 一九六五年)
- 宮内貴久「金神」(『日本民俗大辞典 上』 福田アジオ他、一九九九)
- 引用したウェブサイト**
- 神内八幡宮「三月金神(三月荒神)について」
https://894ke.com/wp/?page_id=12 二〇二一年一月二九日確認
- 白山姫神社「三月荒神やち」
<https://shirayamahime.jimdofree.com/%E4%B8%89%E6%9C%88%E8%8D%92%E7%A5%9E%E3%81%95%E3%82%93/> 二〇二一年一月二九日確認
- 西浦荒神社「荒神様」
<https://nishurakoujin.com/%E8%8D%92%E7%A5%9E%E6%A7%98> 二〇二一年一月二九日確認

○二〇二一年一月二十九日確認
妙国寺「三月荒神さんの方位」<http://myokokuji.info/news/889> 二〇二一年一月二十九日確認

